

[成果情報名] 土壌別のヒリュウ台「青島温州」のわい性効果

[要約] ヒリュウ台「青島温州」は、土壌別で樹冠の拡大が異なる。なかでも土壌乾燥の影響を受けやすい三紀層土壌では、玄武岩土壌や黒ボク土壌に比べ生育が抑制される。

[キーワード] ヒリュウ台、青島温州、三紀層土壌、黒ボク土壌、玄武岩土壌

[担当] 長崎果樹試・常緑果樹科

[連絡先] 電話 0957-55-8740、電子メール t.furukawa@pref.nagasaki.lg.jp

[区分] 果樹

[分類] 指導

[背景・ねらい]

摘果、収穫労力の軽減や高糖度ミカンの生産安定にののために、わい性台木であるヒリュウ台木が利用が有効であると考えられる。しかし、ヒリュウ台の特性を発揮する地域に植栽する必要あるが土壌種類別のヒリュウ台のわい性効果が明らかでない。そこで、土壌種類の異なる地域に植栽したヒリュウ台「青島温州」のわい性効果を調査し、ヒリュウ台木の普及に当たっての適地判断の参考とする。

[成果の内容・特徴]

1. ヒリュウ台「青島温州」の初期生育（3年生樹）は、土層が深く夏期に乾燥しにくい黒ボク土壌が最も樹容積が大きく、次いで玄武岩土壌で、三紀層土壌は幼木期の生育が劣る（図1）。
2. 玄武岩土壌におけるのヒリュウ台3年生樹「青島温州」は、カラタチ台「青島温州」の6割程度の樹容積である（図1）。
3. 定植3年目で3年生樹の主幹径は土壌種類別の差は小さいが、主枝長、葉数は玄武岩土壌、黒ボク土壌、三紀層土壌の順に小さい（表2）。
4. ヒリュウ台「青島温州」の結果母枝の長さ別発生割合は、土壌種類別の差は小さいものの、結果母枝数は、玄武岩土壌、黒ボク土壌、三紀層土壌の順に少ない。ヒリュウ台はカラタチ台に比べ、20 cm以下の短めの結果母枝が多い。

[成果の活用面・留意点]

1. 夏期の乾燥は樹の生育を著しく抑制するので敷きわらの実施など乾燥防止対策が必要であるが、乾燥が続く場合は適時灌水を行う。

[具体的データ]

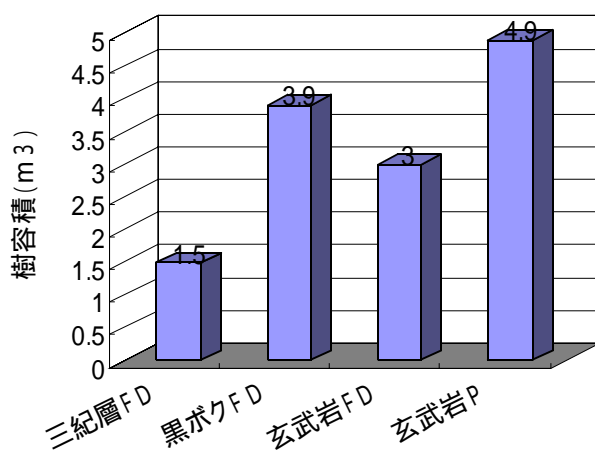


図1 土壌別「青島温州」の3年生樹の樹容積

注) 樹容積は樹高×樹幅×0.7

三紀層土壌は大瀬戸町、黒ボク土壌は有家町、玄武岩土壌は果樹試験場ヒリュウ台 (FD) およびカラタチ台 (P)

表2 3年生樹におけるヒリュウ台「青島温州」の樹体生育量

	主幹径 (mm)	主枝長 (m)	葉数 (枚)
三紀層	27.8 b	1.30 b	626 d
黒ボク土壌	25.6 c	1.67 b	1120 c
玄武岩土壌 FD	25.9 c	1.82 a	1541 b
玄武岩土壌 P	35.5 a	2.09 a	2268 a
有意性	**	**	**

表3 ヒリュウ台「青島温州」の結果母枝の長さ別発生割合

	結果母枝の長さ別発生割合 (%)			合計本数
	5 cm以下	5 ~ 20 cm	20 cm以上	
三紀層	41.5	37.9	20.6	59.2
黒ボク土壌	41.6	37.7	20.7	117.6
玄武岩土壌 FD	34.6	40.3	25.1	139.4
玄武岩土壌 P	22.6	42.0	35.4	195.4

[その他]

研究課題名 : 温州ミカンの品質保証果実の少資材・低コスト生産体系の確立
 予算区分 : 国庫 (地域基幹)
 研究期間 : 平成 11 ~ 15 年度
 研究担当者 : 古川 忠、山下義昭